

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
探究的な学習活動を重視する 「総合的な学習の時間」	茨城県立古河中等教育学校	全日制普通科（中高一貫校）

ア 実施状況について

① 教育課程

（教育課程編成）

- ・本校は開校4年目の中等教育学校である。1年次3クラスで、現在4年次まで在籍している。
- ・3年次（中3）～5年次（平成28年度は4年次まで）の生徒が、化学、物理・地学、生物学、数学・情報、医学・スポーツ、文学、歴史学、地域学、経済学、教育学の10分野の研究室に所属し、担当の古河中等教育学校教職員及び外部アドバイザー（大学院生等）の指導のもと、「総合的な学習の時間」を活用して、探究活動〔Σリサーチ〕を行っている。

（授業展開）

〔前期課程〕3年次 週3単位

グループ別にテーマを設定し、1年間通して探究活動を行う。

成果発表としては、9月の文化祭で中間発表（ポスター）、2月頃に成果発表（パワーポイントによるプレゼンテーション）を実施予定

〔後期課程〕4年次 週2単位（うち1単位が探究活動）

個人でテーマを設定し、2年間通して探究活動を行う。

今年度の成果発表としては、9月の文化祭で中間発表、2月頃に成果発表（ポスター発表）を実施予定、来年度はA4判10枚程度の論文に仕上げ提出する予定

② 教員の指導力向上

（教員研修）

- ・他県の中等教育学校（平成27年度は3校視察）や茨城県立並木中等教育学校（開校9年目）の実践事例等を使って教職員全員が研修を行い、共通認識を持つよう努めている。

（外部人材の活用）

- ・筑波大学の教授や大学院生による研究の進め方の講義を実施、平成27年度は2回（6月と8月）実施した。

③ 校内組織

- ・本校教員による「プロジェクト推進部」で企画・運営を担当している。

④ 施設設備

- ・今年度の7月下旬に、240名収容の多目的ホールが完成するため、探究活動において活用していく予定である。本校は、1年次3クラスなので、2つの年次の生徒が着席可能となる。

⑤ 取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法

- ・県内においては、平成27年度に県立の中高一貫校（日立一中高、並木中等、古河中等）が集まり、探究活動の発表会におけるパワーポイント・ポスターの作成手法や、プレゼンテーション・ポスターセッションの方法等に関する研究協議会を行った。
- ・今後は、公開授業や成果発表会などをおして研究成果を他校に還元していきたい。

⑥ その他

- ・探究活動のアドバイザーとして、筑波大学及び茨城大学の大学院生を募集している。

イ 今後の課題

- ・今年度は3年次と4年次の2学年であるが、3学年がそろそろ来年度は、10分野の各研究室の所属人数が1研究室40人程度となることから、活動場所及び実験設備等の工夫が必要になる。
- ・テーマ設定において、4、5月での指導が必要だが、あまり教員主導になりすぎると生徒の自主性が身につかない。どの程度、指導するかが課題である。